

ナイス ひび
nice さん 見つけちゃいました!

★ 今月のいいね



東静内にお住いの こばやし まさる 小林 勝 さん

小林さんは、幼い頃から絵を描くことが好きで、現在も毎日絵を描き続けています。



まちの魅力は、そこに住む人の生き方に現れる。『今月のいいね』は、さまざまな分野で活躍中の「まちのひと」を紹介していくコーナーです。



Vol.15

■描くことへの思い

オホーツク管内置戸町の農家に生まれ、幼い頃から絵を描くことが好きで、よく落書きをしていました。

20代のころは、戦後ということもあり、生きることに必死で道営競馬の騎手や軽種馬牧場を営むなど、絵とはかけ離れた仕事をしていましたが、その間も画用紙と鉛筆だけは常に手元に置き、空いた時間は人物のデッサンをしていました。

主に、女性の若さ、美しさを描き、人間の魅力を追及しています。利口を取り繕うよりも、勘で描く、それが芸術だと考えています。

■初めての受賞

初めて賞をいただいたのは、昭和59年のことで、娘をモデルに描いた油絵が、日輝会美術協会主催の第6回日輝展で

「特選」を受賞しました。

昔から職を転々とし、何をやってもつまずき「本物になれない」と自分に自信が持てず悩んでいたところへの受賞の知らせに家族みんなで心から喜びました。



第6回日輝展特選作品 むすめ ぞう 「娘の像」

■海外進出への夢

日輝展受賞時には日輝会の会長からも絶賛していただき自分の絵に自信がつき、その頃から自分の作品を海外に出品し評価してもらいたいという思いができました。

昭和60年に、フランスなどヨーロッパ5か国を巡り、さまざまな絵描きに会い、本場の空気を体感したことで、夢への思いが一層強くなりました。

その後、フランスやイタリア、スペインなど海外の展示会に出品し、フランス芸術文化大賞を受賞するなど海外でも評価していただきました。

特に、絵描きの憧れの地であるフランスでの受賞は大きな自信につながったのと同時に、さらなる高みへという意欲も湧きました。

■今後について

美術大学を卒業した弟のさまざまな活躍を聞き、同じ絵描きとして刺激を受け、「大好きな絵を描くことだけは負けたくない」という思いが私を成長させました。

91歳になる現在も家のアトリエで毎日キャンパスに向かい絵を描き続けています。

妻への感謝の思いを忘れず、今後も手が動かなくなるまで絵を描き続けていきたいと思っています。

夫の作品をもっと多くの方に知ってもらいたい、後世に作品を残したいという思いでいつも見守っています。



奥様の まつよ さん